

## J Aの子育て支援活動と自治体の情報ツールの活用

### ～ J Aあつぎの子育て支援「ひなた」の取り組み～

研究員 福田 いずみ

#### 目次

- |                                 |                        |
|---------------------------------|------------------------|
| 1. はじめに                         | 4. J A女性部員の活躍「ゆめみ隊」    |
| 2. J Aあつぎの子育て支援活動               | 5. 自治体の情報ツールを活用した活動の周知 |
| 3. 食と農を大切に育てる子育て支援ひろば「ひなた」の取り組み | 6. おわりに                |

### 1. はじめに

子育て支援のひとつである「子育てひろば」の活動は、核家族化やコミュニティの希薄化等で孤立しがちな親子が自由に集い、お互いを支え合う居場所づくりが原型となっている。母親たちによる草の根的な市民活動として始まったこの取り組みが全国に広まり、2002年に厚生労働省が「つどいの広場事業」として制度化した。その後、2004年の「子ども子育て応援プラン」によって地域子育て支援拠点「ひろば型」として位置づけられ、同年の児童福祉法の改正で社会福祉法上の「第2種社会福祉事業」となった。現在「子育てひろば」の活動は、地域子育て支援拠点事業として全国6,818ヶ所<sup>1</sup>で実施されている。

一方、正確な数は把握されていないが、NPO法人や企業、団体、大学、個人など、多

様な主体が独自に行う「子育てひろば」等の活動も多数存在し、事業主体の規模や特性に応じた様々な子育て支援を実施している。

J Aグループにおいても、第25回全国 J A 大会で地域の再生を図るために次世代をサポートする子育て支援活動を推進することを決議し、2003年の J A いわて花巻の「わいわい子育てフリースペース」を皮切りに、各地で独自の「子育てひろば」を展開している<sup>2</sup>。

J Aの子育て支援の特徴は、地域の親子に交流の場を提供することに加え、「食農教育」に関するプログラムを積極的に取り入れ、農業団体としての独自性を持っているところである。しかし、これまで筆者が行ってきた J A の子育て支援の調査報告の中でも指摘<sup>3</sup>してきたとおり、せっかくの活動が地域の子育て世代に十分周知されていないという問題点が

1 厚生労働省 H P 平成27年度地域子育て支援拠点事業実施状況（子ども・子育て支援交付金交付決定ベース）

[http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kyoten\\_kasho27.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kyoten_kasho27.pdf)

2 現在、秋田県、岩手県、宮城県、茨城県、神奈川県、静岡県、滋賀県、岡山県、福岡県、長崎県、鹿児島県などの J A が実施している。

3 福田いずみ（2013）「農協の乳幼児支援の現状と課題」『共済総合研究』Vol. 66農協共済総合研究所（現・ J A 共済総合研究所）

福田いずみ（2016）「地域子育て支援拠点における食育－ J A 食農教育に向けた新たな視点－」『共済総合研究』Vol. 72 J A 共済総合研究所

あった。

本稿では、多くの地域の子育て世代が情報を入手するために訪れる自治体の地域子育て支援拠点の機能を利用し、従来のJAの情報ツールと合わせて地域の子育て世代に広く情報発信を行っている、JAあつぎの子育て支援活動について報告する。本事例を通して「食農教育」や「JA女性組織の活性化」に加え、自治体の情報ツールの活用やJAが子育て支援を行うことで生まれる地域の子育て世代の循環について述べていく。

## 2. JAあつぎの子育て支援活動

現在、JAあつぎが実施している子育て支援活動には、2011年度から支所ごとに実施している「ゆめっこくらぶ」<sup>4</sup>と、今年度から本所が取り組みを始めた「ひなた」のふたつの活動がある。それぞれの活動の特徴を述べると、「ゆめっこくらぶ」は「育児期の女性をサポートし、仲間づくりを通じて、子育ての悩みの共有やお互いの情報交換を行う身近な場所を提供する」<sup>5</sup>ことを目的としている。一方「ひなた」は、「食農教育の一環として、季節の行事や農産物を紹介し、地域の食文化、



4 各支所がオリジナルのプログラムを企画し、生活指導員や渉外課の職員などからJAの事業を説明する機会を設けるなど次世代対策としても期待されている。参加状況平成23年度80組197名、平成24年度88組197名、平成25年度111組259名（JAあつぎ作成資料より抜粋）

5 JAあつぎ作成資料より抜粋

農業、JAについて関心を持って頂く」<sup>5</sup>ことに重点を置いた子育て支援の取り組みを目指している。

今回は、JAが食農教育の一環として今年度から新たに始めた子育て支援ひろば「ひなた」の活動に焦点を当て、その実践内容について報告していく。

## 3. 食と農を大切にする子育て支援ひろば「ひなた」の取り組み

JAあつぎ本所で実施している子育て支援活動「ひなた」は、本所を建替える際に新しく作られた「クッキングスタジオDaidoCoひなた」や会議室などを拠点にして食農教育を通じた子育て支援を実施することで、農業やJAに対する興味を促す機会につなげていきたいという目的のもと実施している。

活動場所となっている本所4階にあるクッキングスタジオと会議室には、きれいな色使いの調理台やテーブル・椅子がセッティングされており、JAを訪れた若い母親たちから好評である。

### 概 要

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 名 称   | 「ひなた」                    |
| 対 象   | 地域住民の親と子（6歳くらいまで）        |
| 発 足   | 2016年4月                  |
| 場 所   | JAあつぎ本所4階                |
| 参 加 費 | 無料                       |
| 開 催 月 | 4月、6月、9月、11月、1月          |
| 周知方法  | JA店舗内ポスター掲示・チラシ配布、厚木市等   |
| 企画・協力 | JAあつぎ女性部ボランティアグループ「ゆめみ隊」 |
| 担当部署  | 指導販売部 営農企画課              |

○食農教育と季節の伝統行事

今年度の「ひなた」の募集は、年間を通して「端午の節句」、「七夕」、「十五夜」、「収穫祭、クリスマス」、「節分」といった季節の伝統行事にちなんだ遊びや行事食の試食といったプログラム編成となっている。

6月20日に実施した「七夕」には、事前に参加申し込みを行った40名（母親19名・子ども21名）の親子が参加した。

この日は、プログラムの前半に手遊び歌やエプロンシアターなどを行った後、「ゆめみ隊」（後述）のメンバーが自宅で栽培しているトマトやナスなどの夏野菜を子どもたちに見せたり触らせたりしながら名前を当てさせるゲームや、母親たちには、野菜の花の写真を見せてその野菜の名前を当てるなどの食農クイズが行われた。

プログラムの後半は、七夕の笹飾り作りが行われた。当日は「ゆめみ隊」のメンバーの計らいで、参加者が自分の作品を作れるように人数分の笹が用意された。参加した親子は「ゆめみ隊」のアドバイスを受けながら、折り紙で作った飾りを付けたり短冊に願いを書くなどして各々が笹飾り作りを楽しんだ。

開始から終了までの時間は1時間30分ほどであったが、「ゆめみ隊」のメンバーによるスムーズな進行で全員が作品を仕上げられた。

募集チラシ

**食と農を大切にする  
子育て支援ひろば**

参加費無料！「ひなた」  
要予約！

JAあつぎ女性部ボランティアグループ  
「ゆめみ隊」が子育ての応援をします！

| 日にち                          | 内容                                 |
|------------------------------|------------------------------------|
| 4月18日(月)10:30~<br>※1時間程度     | 「端午の節句」<br>かぶと作り、草餅試食 など           |
| 6月20日(月)10:30~<br>※1時間程度     | 「七夕」 笹飾り作り、<br>夏野菜クイズ など           |
| 9月12日(月)10:30~<br>※1時間程度     | 「十五夜」お飾りについて、<br>お月見団子試食 など        |
| 11月21日(月)10:30~<br>※1時間程度    | 「収穫祭&クリスマス」新米おむす<br>び試食、松ぼっくりツリー作り |
| H29 1月16日(月)10:30~<br>※1時間程度 | 「節分」ダイスの紹介・試食、<br>鬼のお面作り           |

★持ち物★ 飲み物、着替えなど

開催場所 ▶ JAあつぎ本所 4階 駐車場あります

住所 厚木市水引2-9-2 ※市立病院向かい

お申込先 ▶ JAあつぎ 指導販売部 営農企画課

電話 046(221)2273



笹飾り作り

#### 4. JA女性部員の活躍「ゆめみ隊」

子育て支援ひろば「ひなた」の企画・運営を行っている「ゆめみ隊」は、JAあつぎ女性部の新旧役員有志（27名）からなるボランティアグループである。

2010年12月にJAの地域貢献活動として発足した「ゆめみ隊」は、JAの子育て支援（「ゆめっこくらぶ」、「ひなた」）や食農教育への参画をはじめ、地域のミニデイサービスや保育園、学童クラブなどにも出向き、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象としたボランティア活動を行っている（2015年度（4月～2月）の活動回数は29回<sup>6</sup>）。

「ゆめみ隊」の活動内容は、食農教育への協力の他に「厚木の民話」など地元を題材にした紙芝居や読み聞かせをはじめ、手品やバルーンアートにスコップ三味線など多岐にわたる。そして、その活動を支えているメンバーは、農業者をはじめ元JA職員、元教員、元保育士、元銀行員など様々なキャリアを持つ、60歳～70歳代を中心としたJA女性部員



JAあつぎ女性部「ゆめみ隊」

たちである。

筆者が4月、6月と連続で参加している母親に「ひなた」の印象について聞いたところ、「「ゆめみ隊」の対応が温かく、まるで親戚のおばちゃんのところ遊びに来たような気持ちになる」という感想が寄せられた。これは、自治体や保育施設の子育て支援には無いJAならではの育て支援の姿ともいえよう。

#### 5. 自治体の情報ツールを活用した活動の周知

「ひなた」の活動の周知方法は、JAの店舗などへのポスター掲示やチラシの配布等といった従来の方法に加え、厚木市が運営している子育て支援センター<sup>7</sup>にもポスター掲示やチラシの配布を行っている。

子育て支援に関する情報提供や相談などのあらゆる機能を有する自治体の地域子育て支援拠点<sup>8</sup>は、連日多くの親子連れでにぎわっている。厚木市の子育て支援センターにも、1日およそ300名が訪れるという<sup>8</sup>。

筆者が6月に「ひなた」を訪れ、参加者にヒアリングした際にこの取組みを知った情報経路について聞くと、自治体の子育て支援センターをあげる参加者が予想以上に多かった。今回、JAが自治体の子育て支援の情報ツールを利用したことで、これまでJAと接点が無かった地域の母親たちにも広く周知されたが、更に情報を広めていくためには、子育て世代が目的の情報を入手するまでのアクセスルートを知ることも必要であると感じた。

6 『ゆめみ隊のしおり』JAあつぎ女性部作成より抜粋

7 地域子育て支援拠点のこと 自治体によって子育て支援センター等の名称を使用するケースも多くみられる。

8 厚木市子ども育成課子育て支援センターに確認。

一方、JAの農産物直売所やグリーンセンターなどの掲示板やチラシを見て参加した母親たちは、自治体の情報ツールを経由して初めてJAと接点を持った母親に比べ、もともとJAと接点を持っていた可能性が高く、JAや農業に親しみを持っていることが予想される。このふたつのタイプの母親が「ひなた」の活動を通して交流を深め、ママ友同士の情報交換の中で、子育てに関する有益な情報をはじめ、JAの農産物直売所の情報や地元農産物の良さなどが伝わっていくような効果が生まれることを期待したい。

## 6. おわりに

2016年1月、NHKスペシャル「ママたちが非常事態!?～最新科学で迫るニッポンの子育て～」という番組が放送された。

その内容は、これまで社会や行政の課題とされてきた現代の子育ての問題について、人類の進化にまでさかのぼり「科学の視点」で見直していくというものだった。

番組によれば、子育てで不安や孤独を感じる母親は全体の7割、産後うつは一般のうつの5倍以上。子育てを困難にしている不安や孤独の原因は、産後に女性ホルモン（エストロゲン）の激減によって起こる。人間にそのような仕組みが備わっているのは、人類が進化する過程で、たくさんの子孫を残していくために編み出された、みんなで助け合っけて子育てをする「共同養育」へと母親を促すための本能であるという。そして、現在も人類本来の「共同養育」を受け継いでいるアフリカ・カメルーンの部族の子育ての実態が紹介され

た<sup>9</sup>。

しかし、現実問題として核家族化やコミュニティの希薄化が進行している現代の日本の生活環境では、本能的に「共同養育」への欲求を感じながらも、それを実現することは困難な状況である。番組では、こうした本能と現実とのギャップが子育て中の母親に強い不安や孤独感をもたらしているとの指摘があった。

これまで社会や行政の課題とされてきた子育て支援の問題を、以上のような人類の進化や人体生理学の視点から見ると、ママ友同士の支え合いは、現代の母親たちの本能的な共同養育への欲求の現れであり、冒頭で述べた「子育てひろば」のような子育て仲間を求める活動が発生するのは、ある意味必然であったともいえよう。

母親にとって子育てのサポートが期待できる最も身近な存在である祖母も、女性の出産年齢の高齢化に伴い、祖母となる年齢も高くなってきていること、また冒頭に記した核家族化、さらには女性の価値観の多様化や就労状況の変化によって以前と比べて多くを期待できない環境が進行している<sup>10</sup>。そして血縁に頼れない分、地縁、つまり地域での支援が求められている。

近年は、厚生労働省が進めている「子育て世代包括支援センター」や、一部の自治体<sup>11</sup>で取り組まれているフィンランドの制度である「ネウボラ」のような、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援に向けた動きも見られるようになったが、一方で支援にたどり着くことができなかつたため発生する子どもの虐

9 <http://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2015067268SA000/?capid=nolmama004>

10 久保恭子、田村毅（2011）「祖母力を活用した育児支援のあり方検討」『東京学芸大学紀要教育科学系Ⅱ』pp. 257-261

11 東京都世田谷区、埼玉県和光市など

待などの悲惨な事件は後を絶たない。

地域の子育て支援へ参画する際は、自治体等と連携して活動を周知することに加え、今後は特別な支援が必要な親子がいた場合は専門機関につなぐなど、地域の子育て支援ネットワークのひとつとして機能していく視点を持つことが、今後ますます求められるであろう。

### 【謝辞】

本稿の執筆に際し、JAあつぎ指導販売部営農企画課の皆様とJAあつぎ女性部「ゆめみ隊」の皆様には多大なるご理解とご協力をいただきました。

また、ヒアリングに応じていただきましたお母様方にはたくさんの貴重なご意見を頂きありがとうございました。

末筆ながら、この場を借りてお礼申し上げます。

### 【参考文献】

- ・牧野カツコ（2005）『子育てに不安を感じる親たちへ 少子化家族の中の育児不安』ミネルヴァ書房
- ・山縣文治監修 中谷奈津子編（2013）『住民主体の地域子育て支援 全国調査にみる「子育てネットワーク」』明石書店
- ・JAあつぎ女性部（2016）「ゆめみ隊のしおり」
- ・平成27年度子育て世代包括支援センター事例集  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000123792.html> 厚生労働省HP
- ・NHKスペシャル「ママたちが非常事態!? 最新科学で迫るニッポンの子育て」  
<http://www.nhk.or.jp/special/mama/qa.h>

tml NHK HP

- ・内閣府（2015）『平成27年度版 子供・若者白書』
- ・全国農業協同組合中央会くらしの活動推進部（2014）『「JA地域くらし戦略」実践事例』1. JAあつぎ：食農教育と「地域くらし戦略」